厚田区地域協議会３期目の総括並びに引継ぎ事項

２期目からの引き継ぎを受け、厚田区内で仕事や各種団体で活動されている経験を生かし、地域協議会においてあらゆる方面からまちづくりに対するアイデアやご意見をいただいた第３期委員の皆様方に２年間ご尽力いただいたことは、将来に渡り厚田区の新たなまちづくり、特色ある地域づくりを引き出すきっかけとなっていくことは間違いありません。

また、２期目の地域協議会において地域振興事業として位置付けた分科会や実行委員会などにおいても、協議会委員が実践部隊の先頭に立ち、地域住民と共に精力的に取り組んできたことは第３期の成果であると言えます。

現在、厚田区の中では以前から取り組まれ、今後も継承していこうという活動、地域協議会に提案され、生まれ育とうとしている活動、また、生まれ育ち今後も飛躍していく活動など様々な団体が存在し取り組みが展開されております。

しかし、活動メンバーの高齢化による後継者不足の問題や財源確保など深刻な課題も掲げられており、地域協議会においてもその解決に向け取り組む団体をサポートしていかなければなりません。

一方、地域づくりを進める中で、実際に地域活動に携わっていない方々もおり、そういった方々に地域づくりに携わることの「楽しさ」をどう伝えるかも重要な課題であると考えております。

今後においては、厚田区内において活動している団体、個人などが目標をしっかりと共有でき、事業等をきっかけとして横の連携を図り、点を線に、線を面へとつなぎ、協働の意識を忘れることなく連帯感を保ちながら、地域づくりを進めることができるような流れ・システムを構築し、一人でも多くの地域住民がふるさと厚田に夢を持ち続け「自分はやっぱり厚田が好きだ！」と思えるようなまちづくりを目指し、次期地域協議会においても審議していただくよう望み、第３期の総括と致します。

【地域振興事業の取り組み・成果と引継ぎ事項】

①ＮＰＯ法人あつたライフサポートの会

平成21年度 無償ボランティアによるサポート活動を1年間実施しながら、過疎地有償運送事業の実現に向け NPO 法人格を取得、その後国の許可取得に向けた動きとして「石狩市過疎地有償運送事業運営協議会」が設置され、原案どおり委員全員の承認を頂き、念願の過疎地有償運送事業許可を取得することができました。

この間、当会メンバーの努力はもちろん、運営協議会設置から開催に至るまで、本庁企画課の皆さんには絶大なるバックアップを頂き、運営協議会ではスムーズな審議の中で承認を頂く事ができたことは、まさに市民と市が一体となり事業に取り組む、これぞ「協働」の姿であると実感した一事業でもありました。

平成22年4月からは有償による移送事業が展開され、22年度地域の足として910名の方々のサポートを実施、また2年目となる除雪事業においては8件の依頼をこなし、徐々にではありますが広がりを見せ、会の理念である「住み慣れた厚田の地で、いくつになっても、いつまでも安心して住み続けることができる地域づくり」への展開が図られた2年間であったと確信しております。

今後においては、さらに利用しやすい運営形態の確立を目指す一方、いくつかの課題の解決にも積極的に取り組んで参りますので、引き続き当会の活動を見守り、後押しして頂きたい。

②あつたの森支援の会　「やまどり」

会が立ち上がり2年目、「地域づくり基金」を活用し活動に必要な資機材を購入、厚田公園内における生活環境保全保安林を活動の拠点に、市有林の下草刈りや徐間伐・枝払ちなどの保育・育成事業を継続して実施できた事は、徐々にではありますが当会の目的（厚田区の森林を守り、山づくりに寄与し、森林・林業への認識を深めながら、山のすばらしさを多くの人たちと共有する）達成に向け一歩一歩近づいているものと認識しております。

また、22・23年度と二ヶ年に渡り、石狩市との「協働事業」として厚田公園内の歩車道の草刈り、さらには石狩市が進めている「厚田ふるさとの森」事業においては、一万五千㎡にも及ぶ土地の地ごしらえから、「ミズナラ」「イタヤカエデ」「ネグンドカエデ」「ギンドロ」など四種類あわせて二千百本の植樹を行うなど、活動の幅も広げ、積極的に事業展開が図られ、ボランティア組織における自主的活動（年間30日程度）を継続的に展開しております。

今後においても新たな活動の展開を模索しているところであり、引き続き当会の活動を見守り、後押しして頂きたい。

③歴史・文化振興事業

厚田が輩出した著名人四名（佐藤松太郎、子母澤寛、戸田城聖、吉葉山）を中心とした厚田区の歴史にゆかりのある人物を広く紹介し、厚田区の歴史文化の伝承を図る事を目的にH21年2月「あつた資料室リニューアル構想策定協議会」が発足、「地域づくり基金」を活用し市との協働による事業展開により、晴れてH22年5月 厚田資料室リニューアルオープンを迎える事ができました。

この間、オープンに至るまでにはメンバーはもちろん、多くの地域の方々の協力を頂きその努力の結果、約2,800名（H22年度）前年度に比べ約8倍の来館者を迎える事ができたことは、基金の有効的活用が図られたものと自負しているところです。

また、H22年12月からは「あつた資料室リニューアル構想策定協議会」から「厚田資料室サポートの会」と名称を変更し、23年度においても昨年以上の入館者数を目標に、特別展の開催や広報活動などへの取り組みを展開し、多くの人に厚田を知っていただき、厚田の歴史・文化の伝承を図り、またリニューアル後の成果を今後においても伸ばして行けるよう、取り組みの強化に向けた協議検討が継続的に行われており、引き続き当会の活動を見守り、目標である新たな資料室建設実現に向け取り組んでいる当会を後押しして頂きたい。

④地域教育分科会

地域の子ども達の教育向上に向け、「地域」「保護者」「学校」が一体となり地域教育を目指し、H22年2月より分科会を立ち上げ、地域活性化を促進する地域の教育力についての検討、地域教育力を高める方法についての勉強会、地域を支える各種ボランティア団体の教育支援の在り方の検討など、協議を進めてきました。

また、H23年2月には厚田区の教育を支援できる組織・体制づくりが図れないものかと、地域住民との座談会を実施し、29名の方々に参加を頂き多くの貴重な意見を頂いたところであり、地域の各種団体、個人など教育資源の活用に向け取り組みを進めて来ておりますが、現段階では目に見える成果とまでは至っておりません。

しかし、私たちはこれからも継続的な活動を展開し、さらに地域支援団体の組織化、地域と学校との支援プログラムの検討・実践などを通して、一歩一歩時間をかけ実績を積みながら、子ども達の学力向上に結び付く活動を関係機関との連携の中で展開して参ります。

今後においても活動実績等逐次地域協議会へ報告をさせて頂き、皆様からご意見を賜りたいと考えておりますので、引き続き当分科会の活動を見守り、後押しして頂きたい。

⑤あつた水彩画展芸術文化振興事業

この事業は、厚田のすばらしさ（自然・風土・食材）を水彩画展を通してＰＲし、優れた芸術・文化に触れることで、豊かな人間性を育み、さらには多くの来訪者と触れ合うことで気づき・気づかされ、新たな地域づくりへと発展することを目標に厚田アクアレール実行委員会が H22 年 12 月発足し事業を進めております。

事業の流れは、２年に１度 作品を募集し展覧会を実施する計画であり、H23 年度にチラシ、ポスターを作成（地域づくり基金活用）、市ＨＰ等によりＰＲし、作品を募集、H24 年度に審査会（5 月）、オープニングセレモニー、表彰式、展覧会（7 月）を予定しております。

また、これまで 2 度ほど先進地である中札内村へ視察研修を行ったほか、1 回目の展覧会開催に向けた作品募集の周知活動は今後において重要なことであるとの判断から、メンバーがチラシ・ポスターを持参し、この事業の想いを直接相手に伝えるため、これまで 2,000 枚のチラシを配布、ポスターも 600 枚程道内各地の文化施設等へ掲示したところであり、今後も道内各地の関係機関へのＰＲ活動を展開して参ります。

あわせて来年度の展覧会開催に向け「地域づくり基金」の発動提案が今後予定されていることから、地域協議会において十分な審議を頂き柔軟な対応かつこの事業への応援・協力を頂きたい。

⑥仮称「特産品直売分科会」

特産品（農業、水産業）販売を通じて厚田区の地域活性化に向けた取り組みを図ろうと地域協議会に提案があり、その実現に向けた分科会を立上げようと、現在準備委員会が設置され、分科会発足に向けた動きが活発になってきている新たな団体です。

今後、地域の特色を生かした新たな地域活性化の起爆剤の一つとなる事を期待しているところであると同時に、地域住民の夢・想いが実現できるよう地域協議会としてもこの団体を見守り、後押しして頂きたい。

平成23年9月29日

次期地域協議会への引継ぎについて

厚田区地域協議会
会長　菅原　道夫　様

地域教育分科会
座長　佐藤勝彦

Ⅰ．はじめに

厚田区地域協議会の第三期（平成21年10月～平成23年9月）において、地域活性化に向け「地域の教育力」が議論されました。少子・高齢化と過疎化が進む厚田区において、地域の伝統として生き続けている“地域の子どもの教育は地域で”という地域教育支援の活動を「地域全体の活動に組織化し広げることはできないか」という提言でした。この提言を受け、「地域活性化に向けた地域教育の在り方」について分科会での検討が諮問されました。

地域教育分科会では、この諮問を受け、1年半をかけて検討を続けてきました。地域教育分科会が目指した、「厚田区にしかできない自律的な地域力を生かした地域教育の在り方」を具体的な姿に結実させるためには、多くの年数を要します。それは、地域・学校・教育委員会それぞれの立場を異にする組織体が信頼と協働の精神で「一緒に汗をかく」体制の構築に時間を要するという現実です。

厚田区は、子育て環境として最も理想的な社会関係資本を有しています。体験学習に恵まれた自然環境、農業・漁業・林業など身近な第一産業、そして何よりも地域の結び付きとボランティア精神に裏打ちされた各種支援活動、このようなネットワークを地域の活性化に向けて促進する地道な活動を続けることにこそ重要です。今回は、諮問を受けた「地域活性化に向けた地域教育の在り方」の具体化に向け、次期地域協議会に引き継ぐことが望ましいと考えました。

Ⅱ．引継ぎ事項

地域教育分科会は、以下のプロセスで検討を行ってきました。

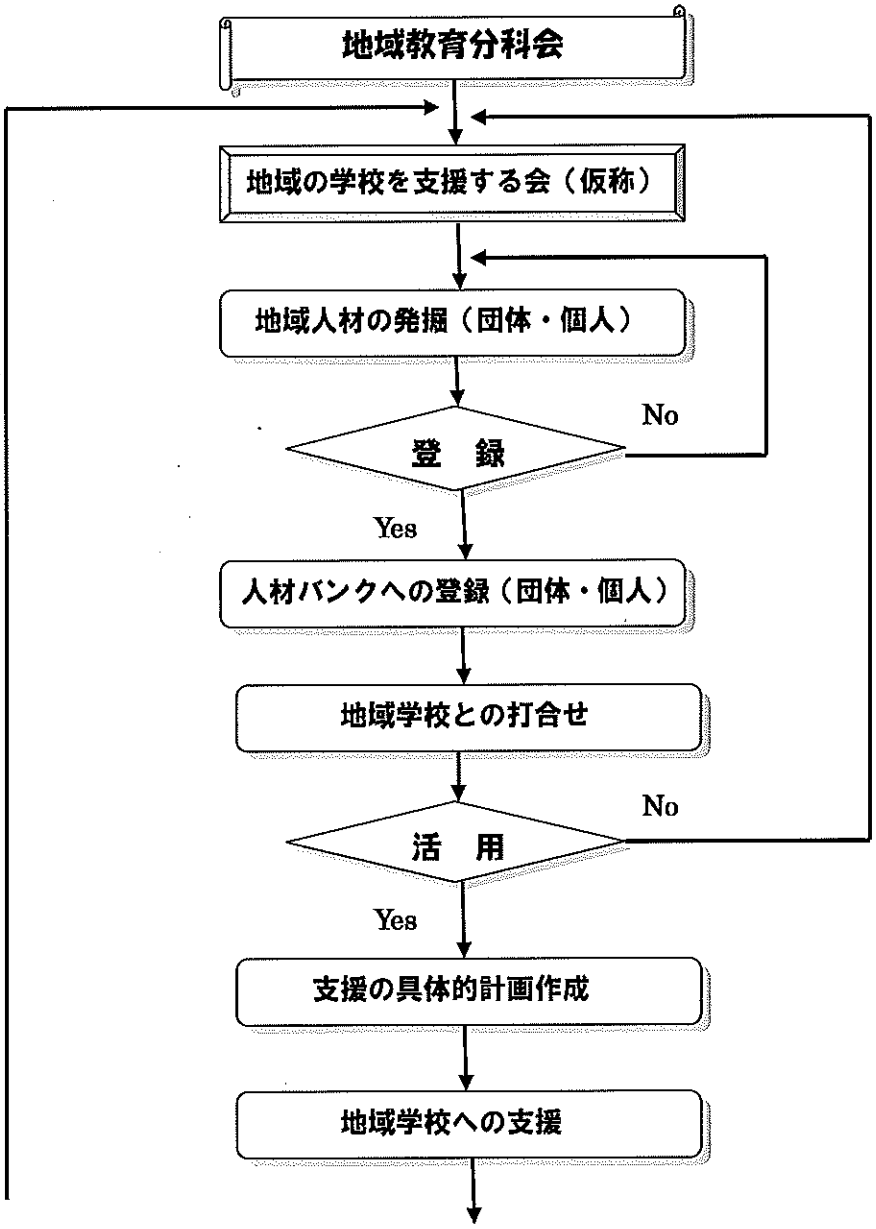
1．地域活性化を促進する地域の教育力について検討する。
2．地域教育力を高める方法についての勉強会を行う。
3．地域を支える各種ボランティア団体の教育支援の在り方を検討する。

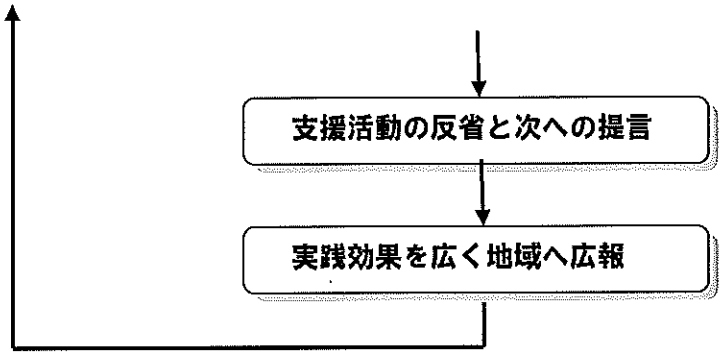
上記の検討プロセスを踏まえて、具体的目標として以下の検討及び作業を行ってきました。

1．地域の各種団体及び個人の教育資源の洗い出しを行う。
2．各種団体・個人の承諾に基づき支援団体リストの作成を行う。

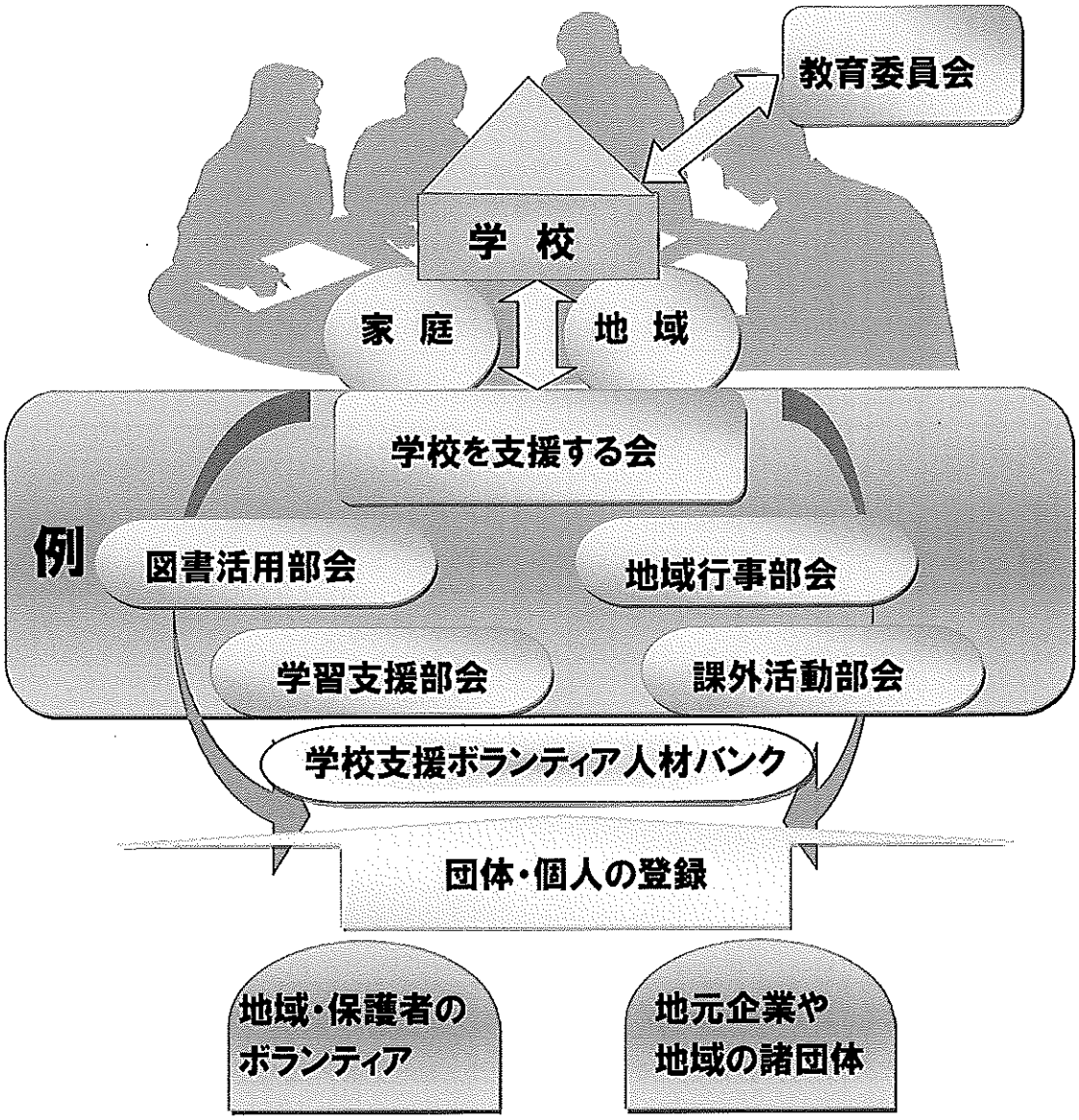
3．地域教育の支援団体の組織化を行う（3ページの図参照）。
4．豊かな地域教育実践を目指して地域学校との検討に入る。
5．地域学校との検討から生まれた地域教育支援プログラムの作成を行う。
6．支援プログラムの実践記録を広報し、地域教育支援の輪を広げる。

地域教育分科会では、地域の潜在的人的資源を発掘し、その地域の人々がさまざまな教育活動に参加し、「みなで一緒に汗をかく」ことが地域教育力を高める有効な方法と考えています。この活動が停滞せず地域の人々を巻き込み、一過性に終わることなく、続ける仕組みが下図に示した活動の循環系であります。引き継ぎ事項は、この循環系を軌道に乗せることであります。





厚田区地域教育支援構想図（案）



Ⅲ．地域と学校の協力関係

地域教育分科会では、勉強会を通して“地域と学校”の関係の重要性を学びました。その中でも特に、平成16年に成立した「地教行法」改正による新しいタイプの公立学校（コミュニティ・スクール）は私たちに大きな衝撃を与えました。この学校運営協議会制度の導入を視野に全国の導入事例を調査・研究しました。この調査・研究で分科会が得た結論は、「地域の教育力を高める」（方向目標）という目的達成のためのツールであっても、コミュニティ・スクール導入が目的にはならないということでありました。地域の教育力を高めるために、地域住民が地域の学校にどのような支援ができるのか？　その学校を学校側がどのような学校にしたいのか？　この両者がどのような教育的ビジョンを共有しているのか？　このような地域住民と地域学校の関係性を実現させるための一つのツールとしてコミュニティ・スクールが存在しているということです。金子郁容氏（慶応大学）は「コミュニティ・スクールには、「学校支援」と「学校経営」の2つの側面がある」と指摘する（「日本で「一番いい」学校」岩波書店）。地域に人々が学校に支援できるのは「学校支援」の側面です。前述した地域住民が地域の「学校にどのような支援ができるのか？」を考えるのが「学校支援」の側面であり、学校側が「どのような学校にしたいのか？」と言う側面が「学校経営」ということになります。この両者の協働が「一緒に汗をかくこと」であり、「地域の教育力を高める」有効な方法になります。

少子化する学校では、各教科の教員数確保が難しくなります。学校教育への地域住民の協力が具体化します。色々な機会を通じて、今後ますます、“地域と学校の関係協力”が必要な時をむかえるものと思われます。